

気候変動に関する政府間パネル (IPCC) について

気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の概要

「気候変動に関する政府間パネル (IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change)」は、人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として、1988年に世界気象機関 (WMO) と国連環境計画 (UNEP) により設立された組織である。

IPCC は、議長、副議長、三つの作業部会及び温室効果ガス目録に関するタスクフォースにより構成される (図)。それぞれの任務は以下の通りである。

第1作業部会：気候システム及び気候変化の自然科学的根拠についての評価

第2作業部会：気候変化に対する社会経済及び自然システムの脆弱性、気候変化がもたらす好影響・悪影響、並びに気候変化への適応のオプションについての評価

第3作業部会：温室効果ガスの排出削減など気候変化の緩和のオプションについての評価

温室効果ガス目録に関するタスクフォース：温室効果ガスの国別排出目録作成手法の策定、普及および改定

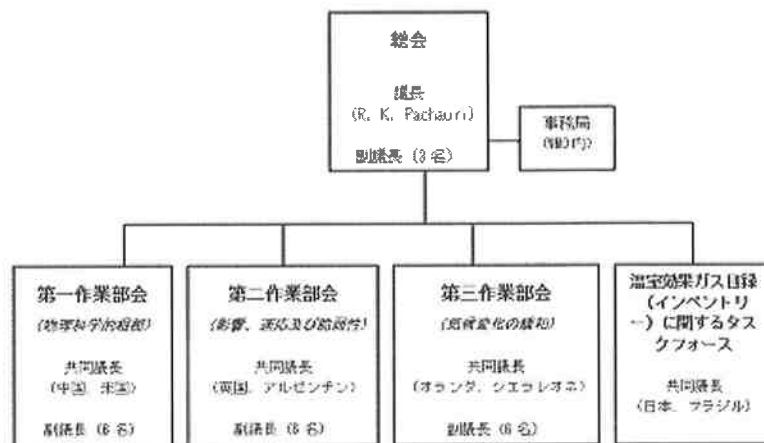


図 IPCC の組織

IPCC の報告書

IPCC は、これまで三回にわたり評価報告書を発表してきた。これらの報告書は、世界の専門家や政府の査読を受けて作成されたもので、「気候変動に関する国際連合枠組条約 (UNFCCC)」をはじめとする、地球温暖化に対する国際的な取り組みに科学的根拠を与えるものとして極めて重要な役割を果たしてきた。これまでに IPCC が取りまとめた評価報告書は以下のとおり。

- 1990年 第1次評価報告書
- 1992年 第1次評価報告書補遺
- 1995年 第2次評価報告書
- 2001年 第3次評価報告書
- 2007年 第4次評価報告書

第4次評価報告書の作成には、3年の歳月と、130を超える国の450名を超える代表執筆者、800名を超える執筆協力者、そして2,500名を超える専門家の査読を経て、本年順次公開された。

これまでの結果

IPCC 第 4 次評価報告書は、第 1～第 3 の各作業部会報告書および統合報告書から構成される。各作業部会の報告書は、各作業部会総会において審議・承認・公開され、本年 5 月の IPCC 第 26 回総会において採択された。また、今回、各作業部会報告書の分野横断的課題についてまとめた「統合報告書」が本年 11 月の IPCC 第 27 回総会において承認・公開された。第四次評価報告書に関連する作業結果は以下の通りである。

- 1 月 29 日～2 月 1 日 第 1 作業部会（於 フランス・パリ）
（第 1 作業部会報告書審議・承認）
- 4 月 2 日～ 6 日 第 2 作業部会（於 ベルギー・ブリュッセル）
（第 2 作業部会報告書審議・承認）
- 4 月 30 日～5 月 4 日 第 3 作業部会（於 タイ・バンコク）
（第 3 作業部会報告書審議・承認）
- 5 月 4 日 IPCC 第 26 回総会（於 タイ・バンコク）
（第 4 次評価報告書第 1～第 3 作業部会報告書承認）
- 11 月 12 日～17 日 IPCC 第 27 回総会（於 スペイン・バレンシア）
（統合報告書審議・承認）

わが国における取り組み

わが国は、同報告書取りまとめに当たり、省庁連携による IPCC 国内連絡会を組織し活動支援を行ってきた。わが国の多くの研究者の論文が数多く同報告書に引用されたほか、多くの研究者が執筆者として原稿を執筆した。また同報告書の最終取りまとめにおいてわが国は積極的な貢献を行っている。

今後、統合報告書の仮訳を早急に公開するとともに、各作業部会報告書及び統合報告書の政策決定者向け要約、各作業部会報告書技術要約等について、我が国執筆者の査読を踏まえ順次日本語訳を確定させる予定。

我が国における IPCC 第4次評価報告書執筆者

統合報告書の執筆者

氏名	所属	担当章
松野 太郎	(独)海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター 特任上席研究員	Topic3(予測される気候変化とその影響)、Topic5(長期的な展望)及び Topic6(確実な知見、不確実性)
杉山 大志	(財)電力中央研究所 社会経済研究所 主任研究員	Topic5(長期的な展望)及び Topic6(確実な知見、不確実性)

第1作業部会報告書の執筆者

氏名	所属	担当章
中島 映至	東京大学気候システム研究センター センター長・教授	第2章: 大気組成及び放射強制力 RE
小池 俊雄	東京大学地球観測データ統融合連携研究機構 機構長	第4章: 観測(雪氷及び凍土) RE
藤井 理行	国立極地研究所 所長	第4章: 観測(雪氷及び凍土) LA
野尻 幸宏	(独)国立環境研究所地球環境研究センター 副センター長	第5章: 観測(海洋気候変動及び海面水位) LA
花輪 公雄	東北大学大学院理学研究科 教授	第5章: 観測(海洋気候変動及び海面水位) LA
住 明正	東京大学サステナビリティ学連携研究機構 地球持続戦略研究イニシアティブ 統括ディレクター・教授	第8章: 気候モデル LA
松野 太郎	(独)海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター 特任上席研究員	第8章: 気候モデル RE
鬼頭 昭雄	気象庁気象研究所気候研究部 部長	第10章: 気候予測 LA
野田 彰	(独)海洋研究開発機構 地球環境フロンティア研究センター 地球環境モデリング研究プログラム プログラムディレクター	第10章: 気候予測 LA

RE : Review Editor(査読編集者)

CLA : Coordinating Lead Author(統括執筆責任者)

LA : Lead Author(代表執筆者)

第2作業部会報告書の執筆者

氏名	所属	担当章
沖 大幹	東京大学生産技術研究所 教授	第3章:淡水 LA
西岡 秀三	(独)国立環境研究所 参与	第10章:アジア RE
原沢 英夫	(独)国立環境研究所 社会環境システム研究領域 領域長	第10章:アジア CLA
本田 靖	筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授	第10章:アジア LA
三村 信男	茨城大学 地球変動適応科学研究機関 機関長	第16章:小島嶼 CLA
高橋 潔	(独)国立環境研究所 地球環境研究センター 温暖化リスク評価研究室 主任研究員	第17章:適応 LA

RE : Review Editor(査読編集者)

CLA : Coordinating Lead Author(統括執筆責任者)

LA : Lead Author(代表執筆者)

第3作業部会報告書の執筆者

氏名	所属	担当章
山口 光恒	東京大学 先端科学技術研究センター 特任教授	第1章:序論 LA
杉山 大志	(財)電力中央研究所 社会経済研究所 主任研究員	第2章:枠組み LA
甲斐沼 美紀子	(独)国立環境研究所 地球環境研究センター 温暖化対策評価研究室 室長	第3章:中長期シナリオ LA
内山 洋司	筑波大学 大学院 システム情報工学研究科 リスク工学専攻長・教授	第4章:エネルギー LA
小林 茂樹	(株)豊田中央研究所 先端研究部門総括室 General Manager	第5章:輸送 CLA
室町 泰徳	東京工業大学 大学院 総合理工学研究科 准教授	第5章:輸送 LA
吉野 博	東北大学 大学院 工学研究科 都市・建築学専攻/建築環境工学分野 教授	第6章:建築 LA
松橋 隆治	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 教授	第7章:産業 LA
田中 加奈子	国際エネルギー機関(IEA) エネルギー・環境課 産業政策アナリスト	第7章:産業 LA
関 成孝	塩ビ工業・環境協会 専務理事	第7章:産業 RE
松本 光朗	(独)森林総合研究所 温暖化対応推進拠点 温暖化対応推進室 室長	第9章:林業 LA
橋本 征二	(独)国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター 循環型社会システム研究室 主任研究員	第10章:廃棄物管理 LA
山地 憲治	東京大学 大学院 工学系研究科 教授	第11章:横断的緩和 LA
西條 辰義	大阪大学 社会経済研究所 教授	第13章:政策、手法 LA
村瀬 信也	上智大学 法学部 国際関係法学科 教授	第13章:政策、手法 LA

RE : Review Editor(査読編集者)
 CLA : Coordinating Lead Author(統括執筆責任者)
 LA : Lead Author(代表執筆者)